第二十章

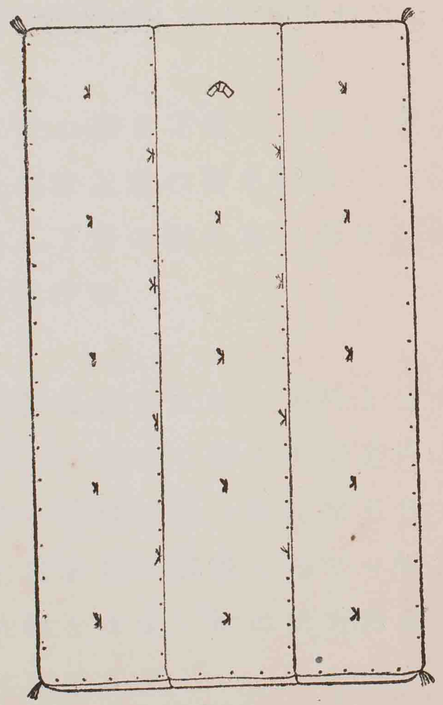
夜着蒲團類

敷蒲團二枚，夜着一枚，掛蒲團一枚，を以つて夜具一組といふ。

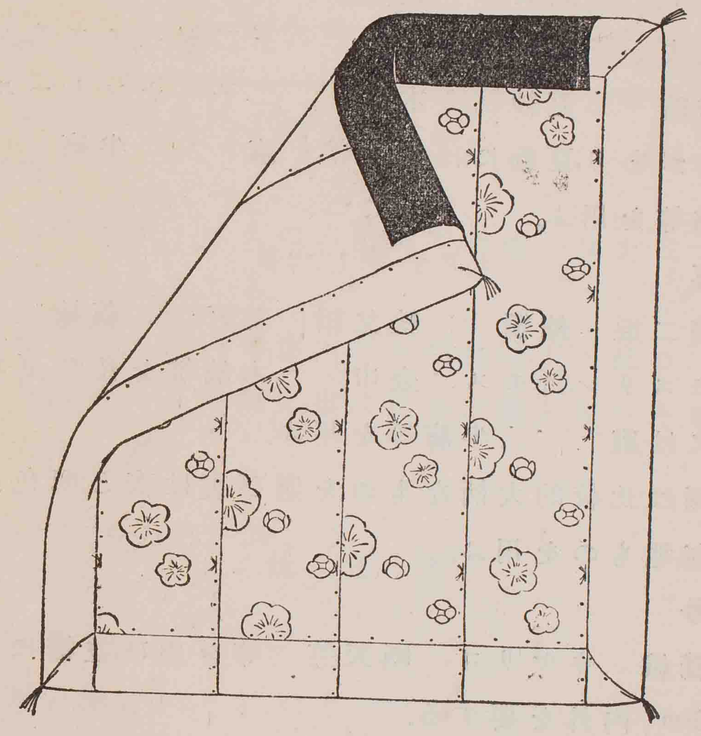
蒲團

出來上圖

敷蒲團（並仕立三布）



掛蒲團（鏡仕立）



種類

敷蒲團　三布　四布

掛蒲團　四布　五布　鏡蒲團

蒲團側地質

表

緞子　縮緬　羽二重　郡內　八端
八丈　銘仙　太織　不二絹　モスリン
紡績　更紗　木綿　二子　ナフトール
等があり,夏物には絽　麻　半麻
縮等を用ふ。

裏

羽二重　縮緬　秩父絹　絲好　繭紬
モスリン,新モス　金巾　木綿等を用ひ夏物
には麻　半麻等を用ふ。

表側は比較的大柄なものを選び,裏は表と配色良き無地ものを用ふ。

掛衿

天鵞絨　キヤリコ　晒天竺　等を用ひ,並幅にて130cm 內外を要する。

綿

蒲團綿は十枚にて3キロ內外の目方がある。蒲團綿の他に絹綿　パンヤ　羽毛　等も入れる。

寸法及び綿の分量

種類	上り丈	綿の分量
敷蒲團	200cm	15－20枚
掛蒲團	190cm	12－19枚

鏡仕立の袵は15cm 內外とす。

用布

三布蒲團　は丈の六倍にて,普通一反を三つに裁つて仕立てる。

鏡布團　表四布,裏六布,の場合は,表は袵の二倍を減じたもの四丈,裏は袵の二倍を加へたもの六丈を要す。

仕立方

敷蒲團

1. 布の縫合

各布の幅を縫合せ,背縫と同樣に一方に向けて折を附け,隱躾を掛ける。但し裏になる中央の縫目は丈の二分の一位を縫ひ殘して引返口とし,折り返す方の一枚だけ伏縫をする。

次に裏表の各縫目を合せて周圍を縫ひ合せ,表

の方に折を掛けて隱躾をなす。

2 綿入

綿を入れる際は綿の切れぬ樣に綿を縱橫に重ね,綿の繼目は 5cm 位重ねる。

(イ)表側の裏を上にして平に置き,第一の綿を布より周圍 30cm 位大きく置き,次に其れより 10cm 位づゝ次第につめて順次縱橫に重ねる。(掛綿二枚分を殘して置く。)

(ロ)角は額緣になる樣綿を順次三角に切り取り,布の角迄綿の行き屆く樣に綿を布より 5cm 位突き出し,他は布より 2cm 程大きく折り返す。

(ハ)此上に布大の掛綿を平に載せ,四隅及び丈,幅,の處々に引絲を附けて置く。

(ニ)四隅の角を中に押し込んで角を整へてから四隅より布,綿,共に卷いて行き,引返口から布を被せる樣にして引き返し,充分に綿を隅迄含ませ,裏表の縫目を引き合せて落付かせる。次に引返口を針目細かく絎けて置く。

3 綴

練の萠黃綴絲二本又は配色良き絹絲で針目4cm

位にて裏表一束に綴ぢ,綿の厚味だけ絲を緩めて結び,絲端を 4cm 位殘して切る。

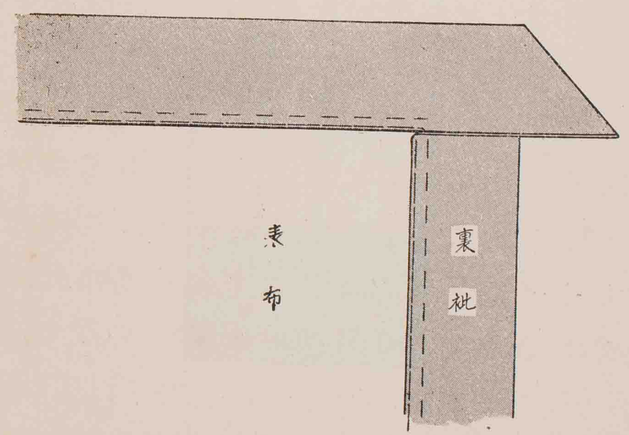
綴ぢる個處は丈を五等分して縫目の際に四針づゝ綴ぢる。木綿物は更に各布幅の中央にて縫目の綴と交互になる樣五針づゝ綴ぢて置く。

鏡仕立掛蒲團

1 布の縫合

表,裏とも幅を各縫ひ合せ,敷蒲團と同樣に裏側で引返口を明けて隱躾を掛ける。

次に表も裏も丈,及び幅の中央に標を附けて,其の標を表裏合せて周圍を縫ひ合せ,折は表に返



して隱躾を掛ける。角は衽を定めて圖の如く折を附け,斜の部分を縫ひ,縫目を割る。

2 綿入

綿の入方は敷蒲團と同じであるが掛蒲團の場合は緣を稍厚目に作る爲幅 20cm 位の綿を蒲團の周圍に入れて仕立てる。

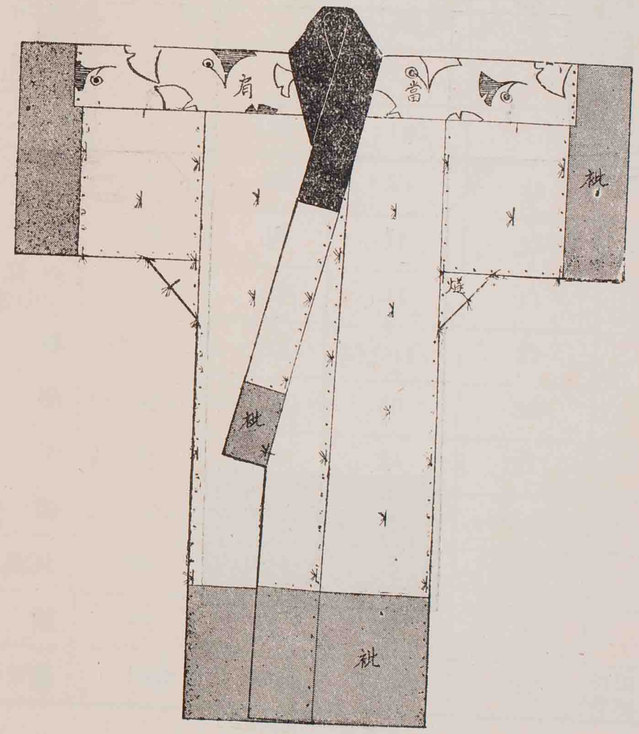
3 掛衿

丈の兩端を伏縫にし,表裏を絎け附ける。

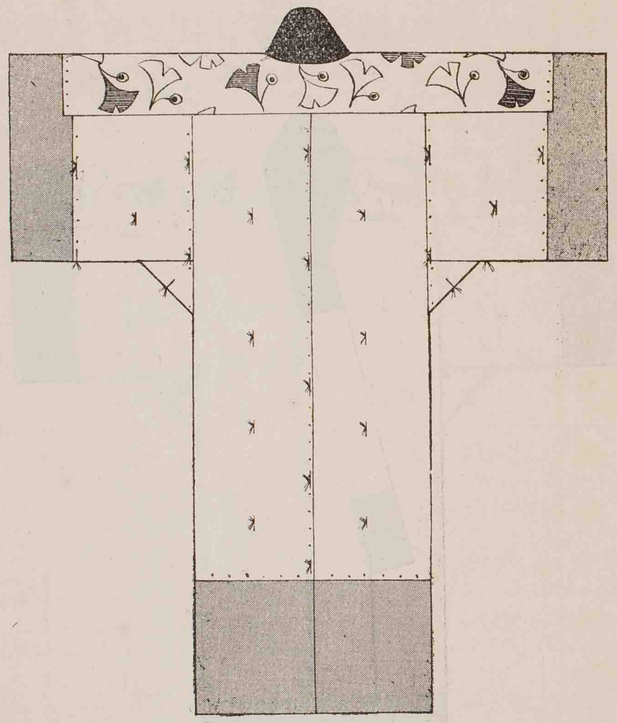
夜　着

出來上圖

前



後



各種夜着類普通仕立上寸法

種類 / 名稱	大夜着（春入）	中夜着	小夜着	掻卷	袍褞
袖丈	65cm	60cm	55cm	55cm	55cm
袖幅	いつぱい	いつぱい	いつぱい	いつぱい	33
裏袖幅	二布	二布	一布半	一布半	一布
燧	15	15	15	——	——
身丈（衽共）	200	190	180	170	長着と同寸
裾衽	40	35	30	25	1
衿衽	20	18	15	15	——
衿肩明（裁切）	13	12	11	11	9.5
後幅	いつぱい	いつぱい	いつぱい	32	32
前幅	いつぱい	いつぱい	30	30	28
衽下	24	24	21	21	21
衽幅	いつぱい	いつぱい	いつぱい	いつぱい	16
衿下（衽共	80	75	70	65	65
衿幅	13	13	10	8	6
綿の分量	18枚	15枚	13枚	10枚	袍褞綿又は青梅枚3枚

裁方

表

裁方は燧布がある他は大裁長着と同様である用布長き時又は片面物は棒衽裁とし,短い時は鈎衽裁とする。

裁方　（附圖第二十圖一參照）

裏

裁方　（附圖第二十圖二參照）

裁切寸法の定方

先袖丈＝表袖丈と同寸
62

奥袖丈＝表袖丈－4
58

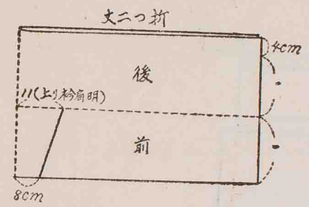
身丈　＝表身丈＋裾袵×2＋縫代
227　156　35　1.

衽丈　＝表衽丈＋裾袵×2＋縫代
207　136　35　1.

鈎下　＝表鈎下＋裾袵×2＋縫代
147　77　35　1.

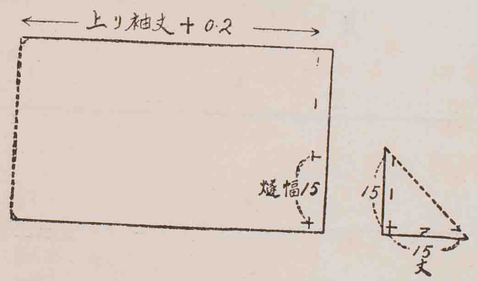
衿丈　＝表衿丈＋衿袵×4＋縫代
264　190　18　2.

肩當



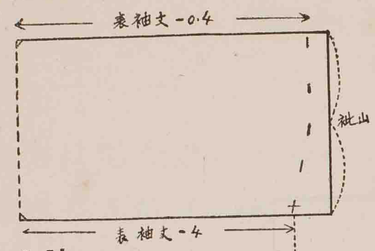
標附方

表袖及び燧

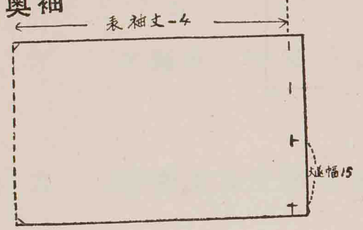


表裏の燧布を各中表として四枚重ねる

裏先袖

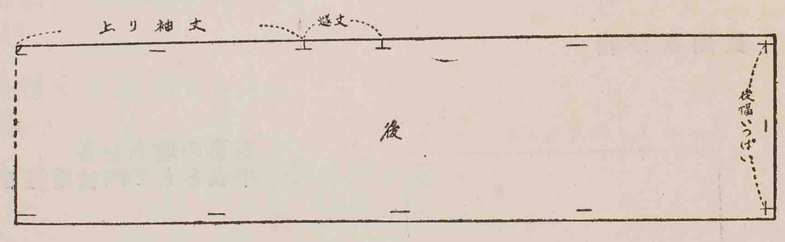


裏奥袖

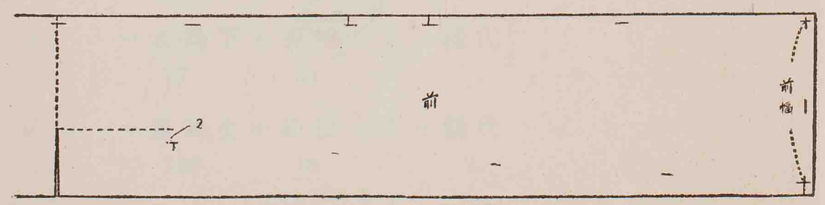


表裄

（後）

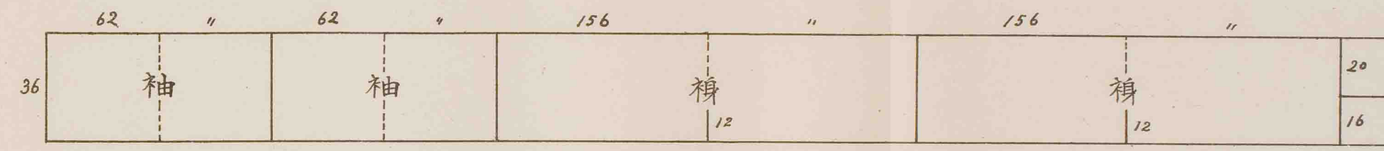


（前）

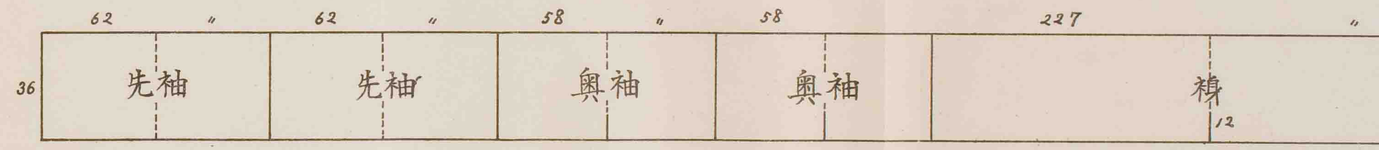


附圖第二十圖

中夜着表の裁方　用布1102 cm

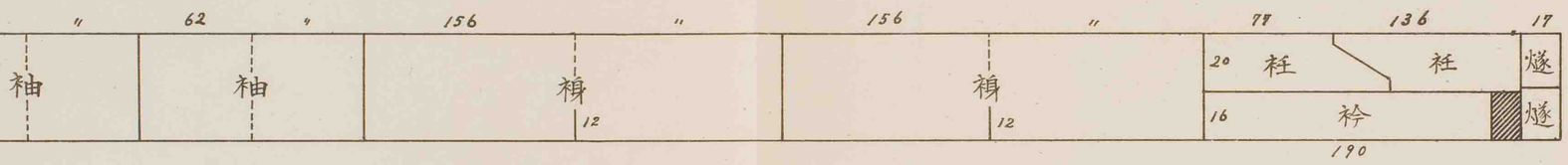


中夜着裏の裁方　用布1642 cm

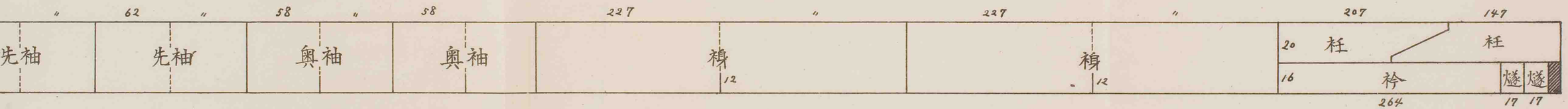


附圖第二十圖

着表の裁方　用布 1102 cm

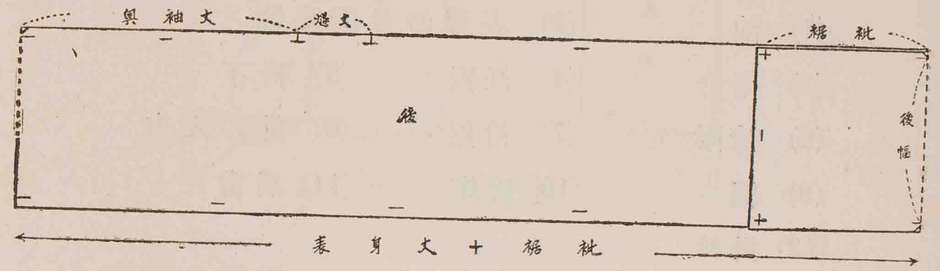


着裏の裁方　用布 1642 cm

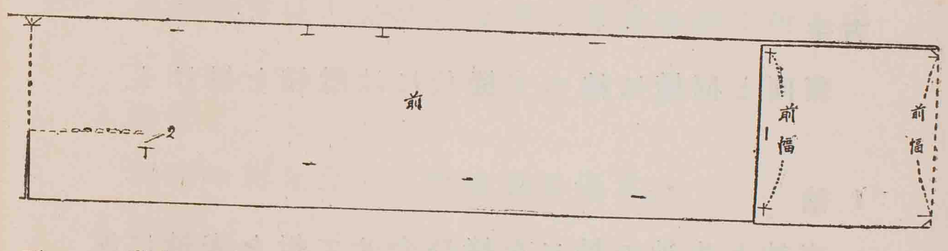


裏　袵

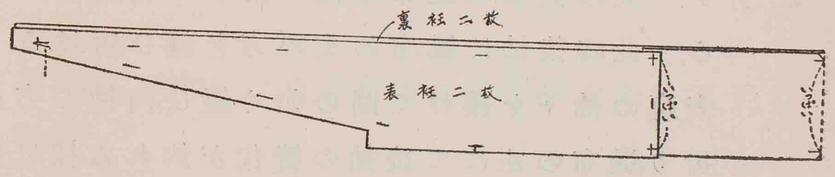
（後）



（前）



衽　裏衽の上に衣衽を重ね裾袵を折り返す



衿　丈を二折とし裏衿の上に表衿を重ねる

縫方

順序

(1) 袖　(2) 表裏の背縫,脇縫
(3) 裾合　(4) 衽附　(5) 衿下
(6) 袖附　(7) 衿附　(8) 綿の入方
(9) 綴　(10) 衿紵　(11) 肩當
(12) 掛衿

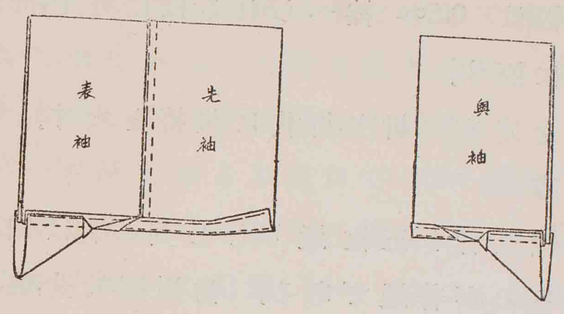
方法

蒲團と同樣に總べて縫代には隱躾を掛ける.

1 袖

表袖と先袖の袖口を縫ひ合せて折を表袖に返す。次に表袖に燧布を縫ひ附けて袖の方に折る。此時後袖に燧布の丈の方を縫ひ附ける。表裏の袖下を續けて圖の如く縫ひ,內袖の方に折り,燧布の止にて後袖の縫代が釣れぬ樣に癖を取る。

裏の奥袖に燧布を縫ひ附け袖下を縫ふ.



2 表裏の背縫と脇縫

表裏の背縫と脇縫とをなし,長着の如く折を附ける。

3 裾合

表裏の裾を合せて折は表に返す.

4 衽附

衽の裾を合せ,表と裏を續けて衽を附ける。

5 衿下

裏幅を 0.4cm つめて衿下を縫ひ,折を表に返す.

6 袖附

表も裏も袖と燧布を續けて長着の袖附と同樣に附け,表の折は袖の方に,裏の折は袵に返す。

7 衿附

表裏の衿幅を衿先より 25cm 位の間縫ふ。此

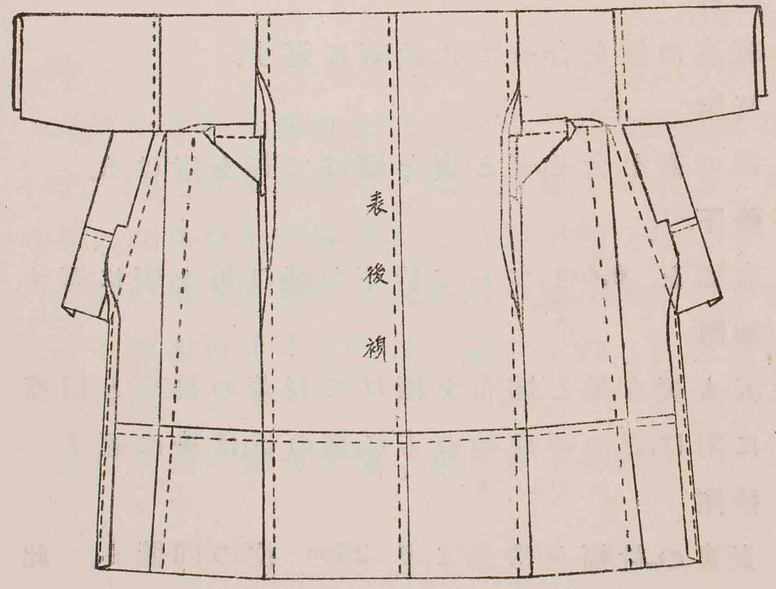
時裏衿幅は 0.5cm 控へられる樣になし,折は裏衿の方に返す。

裏衿幅を定めて折り,折代に伏縫をなす。

8 綿の入方

夜着の綿は背を五枚通りとし其の他は四枚通り入れるのが普通である。尙周圍,衿先,燧,肩,の部分は綿を厚めに抱幅の邊りは薄めに入れる。其の他綿を入れる際の注意は蒲團と同樣である。

一圖　疊　方



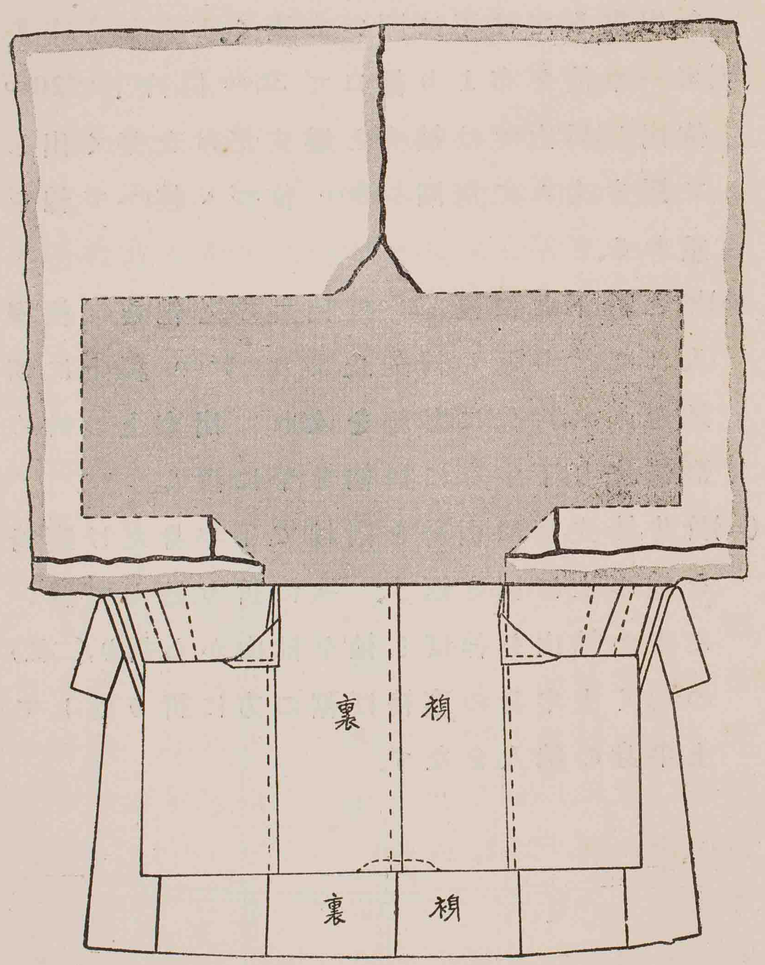
(一圖)の如く表襠の裏を出して後襠を平になし,袖丈を二つに折り込み,前襠の腰より下を出來るだけ平に開いて置く。

(ロ)第一の綿を布より裾口で 30cm 位,衿下で20cm 位出し,肩山では袖丈と燧丈だけを長く出して置き,次々に周圍 10cm 位づゝ控へて綿を重ねる。

(ハ)裾と衿下とに幅 20cm 內外の芯綿を二枚程入れて折り返し,衿先止より 10cm 程上に切込を入れ,衿先に芯綿を入れて出來上の衿の形に作り,下半身に掛綿を平に置く。

(ニ)衿先,褄先,裾に引絲を附けて下半身だけ裏襠を綿の上に引き返す。次に折り込んで置いた表の袖山を伸ばし袖を袍山から折り,(二圖)の如く上半身の裏襠は裾の方に折り返して上半身の綿入をなす。

（二圖）



(ホ)袖下と三衿の部分の綿に(二圖)の如く切込を入れる。

(ヘ)袖口は衽山より20cm位綿を出し,衽山に芯綿を入れて折返し,掛綿を平に置く。

(ト)裏褄を綿の上に載せ,先袖は衽山から綿の上に折返して奥袖と縫ひ合せ,折は奥袖の方に返す。縫合は後袖から縫ひ初めて前袖に縫ひ續けると容易である。

(チ)肩山より綿を前褄に折り返し,綿の接目を交互に接ぎ合せる。

(リ)袖口に引絲を附けて片褄づゝ表返し,表裏の縫目を引き張つて合せ,衿綿を出來上の形の通りに作る。

9 綴

綴絲にて各縫目の際に出來上圖の如く綴をなす。綿布は幅の中央にも綴を入れる。燧布の四隅は縫目に針を跨がらせて綴ぢ,燧布の中央及び衿先は十字に綴ぢる。

10 衿絎

表衿で綿を包み裏衿を其の上に 0.5cm 控へて載せ,綿を抄はぬ様にして絎ける。

11 肩當

丈の兩端を伏縫にし,前後を折つて襟に紮け附け,衿肩廻を綴る.

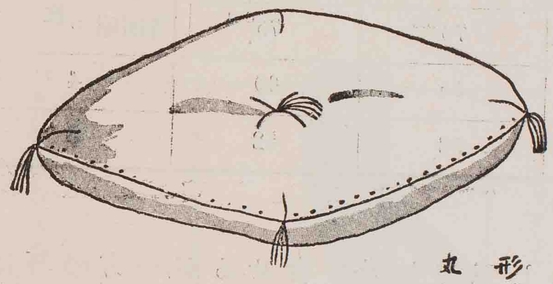
12 掛衿

丈の兩端を伏縫とし表裏を紮け附ける.

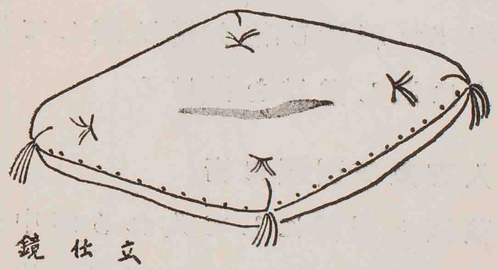
座蒲團

出來上圖

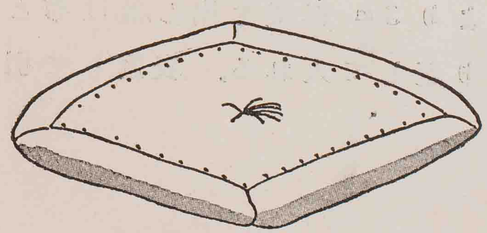
角形



丸形



鏡仕立



地質

地質は蒲團側と同樣。幅は座蒲團地として55cm内外に織つたものがある。

寸法及び綿の分量

種類	幅	丈	綿の分量
大	70cm	75cm	蒲團綿 5枚
中	55	60	4
小	52	52	3

縫方

丈を二折とし三方を縫ひ合せるが,一方の耳は兩端 5cm 程縫ひ,他を縫ひ殘して置く。折を表の方に返し隱躾を掛ける。

綿の入方及び引返口紮

敷蒲團と同樣にして入れるが中央を厚目に入れ,綿は角を布より 3m 程突き出し,他は布と同じ大きさに折り返して入れる。表返して引返口を紮ける。

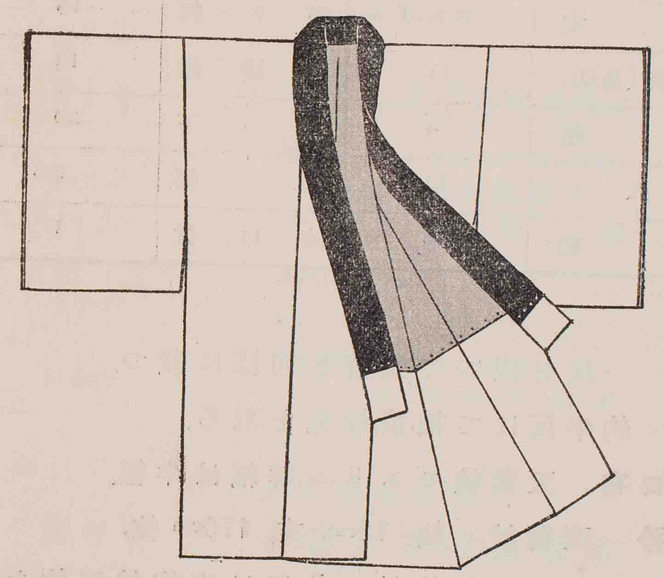
綴

配色よき絹絲四本にて圖の如く綴をなす。

第二十一章

子守袢纏

出來上圖



仕立上寸法

名稱	寸法	名稱	寸法
袖丈	55 cm	後幅	30 cm
袖幅	34	前幅	26
袖附	34	抱幅	24
袖口	濶袖	衽下	20
身丈	1.10	衽幅	15
衿肩明（裁切）	11	相褄幅	14
繰越	4	衿下	30
身八口	13	衿幅	6.5
肩幅	33	袖口衽	1

用布

表　一反を以つて長着と同樣に裁つ。

裏　約半反にて袖,褄,衽先を取る。

袖口布　天鵞絨,モスリン,等幅は半幅。

掛衿　天鵞絨,　幅 15cm, 丈 170cm 位,

綿入の場合は,褞袍綿二枚又は青梅綿三枚を入れる。

375.5
W46
2
昭和44年4月　日
学 162

375.5
W46
2
昭和42年10月21日
17056

昭和十二年十二月十五日　印刷
昭和十二年十二月二十日　發行

中等學校用
裁縫要義　下卷
定價　金一圓五十錢

著者　渡邊女學校 東京女子專門學校 裁縫研究會

發行者　東京市本郷區湯島六丁目廿一番地
渡邊女學校出版部
代表者　渡邊滋

印刷者　東京市本郷區金助町二九番地
杉眞一

印刷所　東京市本郷區金助町二九番地
日興舍印刷所

東京市本郷區湯島
發行所　渡邊女學校出版部
電話小石川（85）八〇五二番 八〇五三番 八〇五四番
振替口座東京一九八二〇番

103042